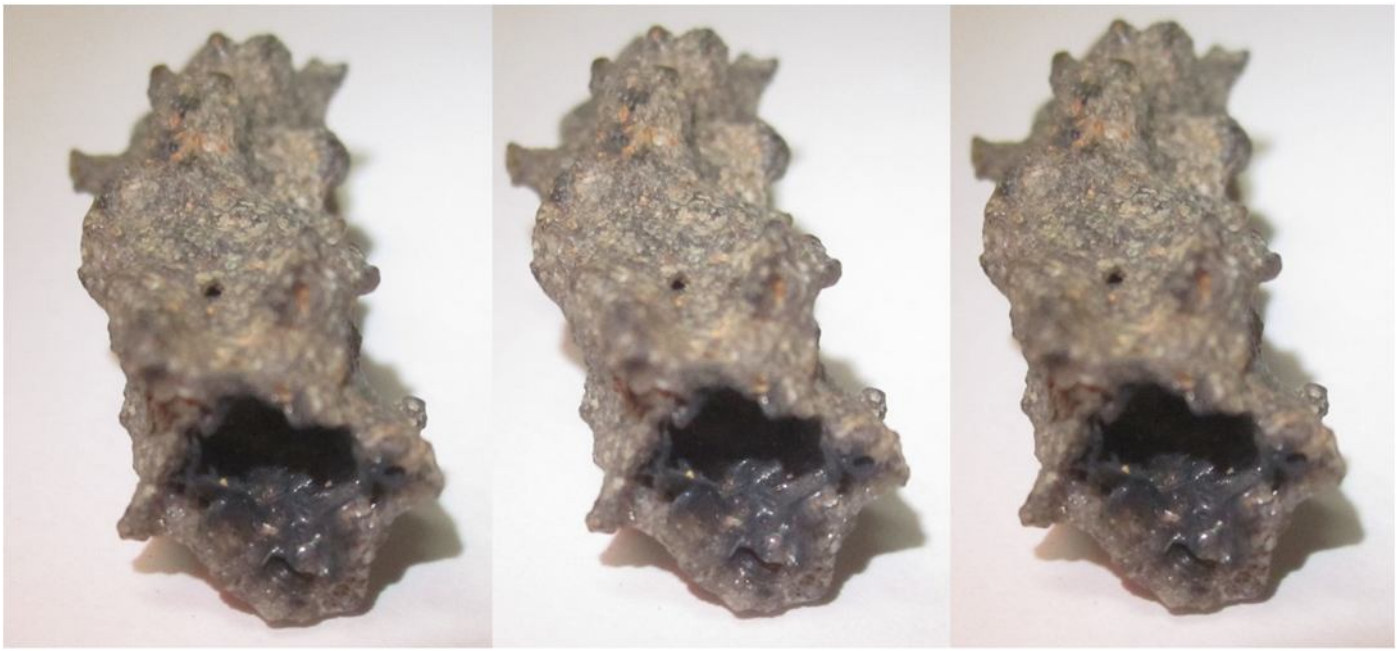
「日々の理科」（第 424 号） 2015（H27),-8,31

「雷管石（３）」

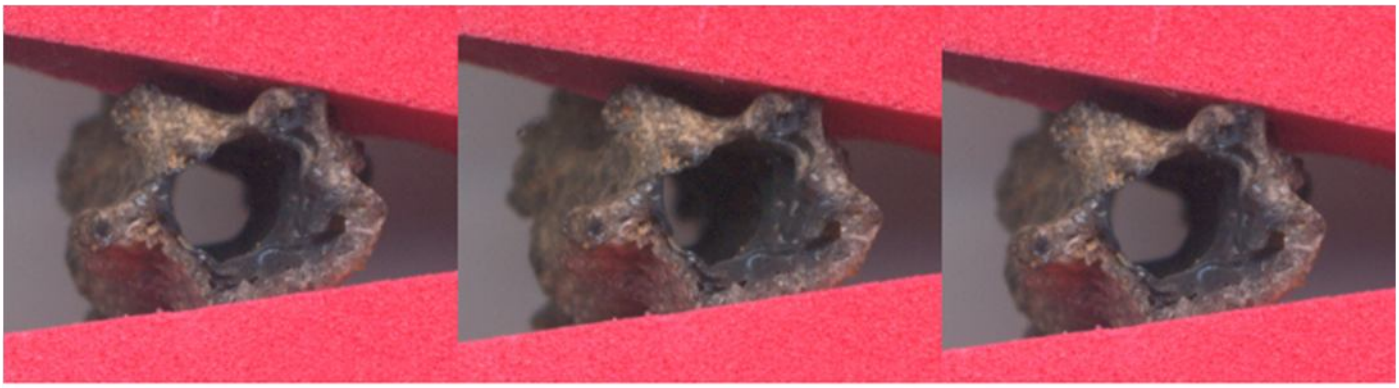
お茶の水女子大学附属小学校　田中　千尋

いかにうまくことばで説明しても、立体的な形状の雷管石のことは正確には伝わらない。平面でのメディア（本、プリント、ＰＣ画面など）で、この立体感を伝えるには、もうステレオグラム以外に考えられない。いろいろな対象で撮影を試みてきたので、少し自信がついた。さっそく試してみた。



交差法　平行法

まずは、全体の形状。雷管石を斜め上から、デジカメで接写撮影してみた。対象が直径１センチ程度と、非常に小さいので、１枚目と２枚目のズレはほんの数ミリだ。これはなかなかうまくいった。奥行や表面の凹凸まで、実物を見ているのと同じように表現されている。まさに「雷の化石」である。



交差法　平行法

今度は、スキャナーを使って、ステレオグラムを撮ってみた。スキャナーの場合、視点を変えることはできないので、１枚目と２枚目で、対象物の角度をほんの数度変えてみた。これもうまくいった。まるで、目の前の雷管石を覗いているように、うまく表現できている。ステレオグラム・・・これは使える！